

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 104 号 2026 年春号

2026 年 3 月 1 日発行

2025年度の総会を開催しました



環境政策課 阿部課長



名戸ヶ谷小 津久井校長

2025年度の総会を名戸ヶ谷ふるさとセンターで14名の会員と、環境政策課の阿部課長、藤原氏、名戸ヶ谷小学校の津久井校長に出席を頂き開催しました。会員25名からは委任状を頂いています。ありがとうございました。

会の活動は24年目を迎えます。昨年は猛暑と深い田んぼでの作業軽減の為うるち田の一部を休耕田とし、半分を「トンボ池」としましたが作業は1時間半程が限度で相変わらず大変でした。名戸小は田植えと稲刈りが予定通り行われ、「楽しかったです」等多くの感想が寄せられました。昔田んぼの保全と併せて、ビオトープとして水生昆虫や水鳥の餌場となる池ができ、水鳥の飛来も増えています。会員の高齢化と役員不足で会の運営は年々厳しい状況です。総会後の意見交換では環境政策課、校長から具体的な対応案も出ました。今後ご協力をお願いし、対策を講じて保全活動を継続していきます。会員の皆様には本年もご協力の程、宜しくお願いします。

(小笠原 智)

2026年1月現在の会員は48名（その内14名が家族会員で会員総数は68名）です。会員は数名の出入りがありましたが、総数共に昨年と同じです。

ニホンアカガエル卵塊調査 中間報告

例年実施のニホンアカガエル卵塊調査会を5回計画し、2月24日までの確認分について中間報告をします。今年はカルガモに荒らされない様防鳥テープを田んぼに張り巡らせています。

※ニホンアカガエルは千葉県の最重要保護生物指定です。

・2月14日(土) 気温6℃ 9:30～10:30

会員3名参加で市民参加はなし。

A、Bゾーン共にゼロでした。朝から快晴で肌寒く田んぼの一部に氷が張っていました。

・2月21日(土) 気温9℃ 9:30～10:30

会員4名参加で市民参加はなし。

Aゾーン22個、Bゾーン2個の合計24個を観察しました。

朝から快晴で、春のポカポカ陽気となり一気に増えました。

調査会以外で、さかのぼって2月16日(月)にはもち田で2個の報告があり、又翌17日(火)にもち田で21個を確認しました。23日(月)は気温が23℃まで上がり、うるち田でも産卵が始まり74個、24日は97個に増えています。昨年は3月12日が最高で136個でした。

暖かさと共に3月へ入り一気に増えて来ると思われます。掲示板にもポスター掲示し市民参加を期待します。次回以降は2月28日(土)、3月7日(土)、3月14日(土)です。

(藤平 三郎)



← Aゾーンで観察中 →



もち田の卵塊



田んぼに張った鳥除けテープ

月例活動状況の報告（12月から2026年2月まで）

12月20日（土）当初予定21日（日）を雨天予報で変更

今年最後の活動日となり、作業はビオトープ全域の大掃除、Bゾーン木村邸側水路脇土手沿いの草刈り、休耕田とホタル水路の奥側を草刈り機による刈り取り、トンボ池の泥さらい、落葉の清掃できれいになりました。終わってから会員手作りの茶菓子を頂き歓談し、来年1月24日（土）総会開催のお知らせをしました。



木村邸側土手沿いの草刈り



休耕田は草刈り機で刈り取り



トンボ池の泥さらい

1月18日（日）

朝から快晴となり冷え込んで氷が張っていましたが、今年最初の活動日で多くの会員が参加され作業は捗りました。二ホンアカガエル産卵場所の整備でAゾーン 田んぼの溝堀り、畔の草刈りを行いました。終わって会員手作りの茶菓子を頂きながら歓談しました。

アカガエル卵塊観察会を2月14日（土）から毎週5回行うことのお知らせしました。



← 田んぼに産卵用溝堀り →

2月15日（日）

朝から快晴で気温もぐんと上がって春陽気となりました。作業はAゾーンホタル水路の落ち葉清掃、看護師寮脇の水路掘り起こし、Bゾーンの草刈りです。枯草にツルが巻きついて、草刈り機、草刈り鎌での刈り取りは大変でした。終わっていつもの様に会員手作りの茶菓子を頂き歓談しました。前日に開催したアカガエル卵塊観察会は結果ゼロと、次回は21日（土）に開催の旨をお知らせしました。

（藤平 三郎）



Aゾーンホタル水路の清掃



← Bゾーン 枯草の刈り取り →



ビオトープの現況

ビオトープへの不法投棄報告

昨年末、ビオトープの三角池に「犬の汚物」が複数回不法投棄されました。投棄禁止看板や監視カメラを設置しましたが無視され、再投棄があったので池の上に防鳥ネットを張りました。三角池はザリガニ釣り場でカワセミの餌場でもあります。また、南側ザリガニ池前の木道・ベンチの板を交換しましたが踏板の下に「オムツ」の廃棄がありました。心無い方の不法行為でとても残念です。今後も防止呼びかけを継続します。



池にビニール入りの汚物が多数浮遊



木道下にあったオムツ



三角池木道側に倒れた竹

雪の重みで竹が倒れます

今期は降雪が2回ありましたが、足洗い場・三角池脇の竹が雪の重みで写真のように大きく倒れてしまいました。葉の雪が解け落ちても元には戻りません。道路側にも倒れるのでその都度障害にならないように伐採しています。(小笠原 智)

ビオトープで再発見

ツグミはシベリヤ？からの渡来

今冬ビオトープで見られるカルガモやコサギ、ヒヨドリ、ムクドリは留鳥ですがツグミは冬鳥でシベリヤ方面から日本に渡来します。

大きさはムクドリサイズ、つがいで田んぼに来て餌を漁っています。冬季は繁殖期でないため、「口をつぐんで」さえずりをしません。それで「ツグミ」と呼ばれるようになったといわれています。(小笠原 智)



田んぼの稲株上で餌を探しています

木道等の補修報告

会で築造した木道やベンチの補修を行い、安全を確保しています。



ザリガニ池前のベンチ板と踏板を更新



ホタル木道の踏板を更新

市で築造した東屋のテーブル・床レンガも補修しています

ホタル広場の「東屋」が築造されたのは、ビオトープの保全が決まり、会の発足前です。ベンチとテーブルもありますがテーブル支柱の片方が腐朽して沈下、床レンガも周囲の樹木の根で盛り上がってしまいました。
(小笠原 智)



テーブルが斜めになり、
床のレンガはガタガタです

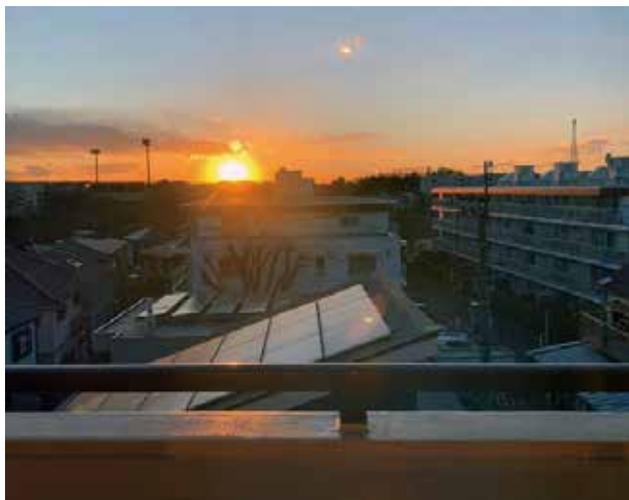


テーブル板を上げ、支柱の両側に添木を固定、
床レンガは1個ずつ砂で高さ調整しました
(素人では全体での高さ調整は困難)

雑感 西野達哉 2026年2月13日

名戸ヶ谷ビオトープで有機農法のお米づくりに関わるようになってから、「自然は特別な場所にあるものではなく、日々の暮らしの中に続いているものだ」と感じる機会が増えました。田植えや草取り、収穫作業を通して、季節の移ろいを体で覚える。そんな積み重ねが、自然との距離をぐっと縮めてくれている気がします。

その感覚は、実は自宅のベランダでも味わっています。天気の良い日には遠くに富士山が見えるのですが、普段は「見えたら少し嬉しい」くらいの存在です。ところが、11月下旬と1月



下旬の夕方5時前後、年に二度だけ、山頂に夕陽が重なる「ダイヤモンド富士」が現れます。澄んだ空気と快晴、そして日付がぴたりと合ったときだけ見られる、ほんの10分間の光景です。

少し雲が出れば見えず、数日ずれば太陽は頂上から外れてしまう。そのはかなさが、かえって心に残ります。家事や仕事の手を止めてベランダに出て、静かに空を眺めるひとときは、ビオトープで水田を見守る時間とどこか似ています。

ビオトープの田んぼにも、同じように「その日、その瞬間」にしか出会えない表情があります。水面に映る夕焼け、稲穂を渡る風、集まってくるトンボやカエルたち。手をかけた分だけ、自然が応えてくれる。だからこそ、小さな変化にも気づけるようになります。

遠出をしなくても、自然はすぐそばにある。ベランダの富士山も、名戸ヶ谷ビオトープの田んぼも、私にとっては同じ「日常の観察場所」です。

会員の皆さんも、活動の帰り道やご自宅から、ぜひ一度空や風景をゆっくり眺めてみてください。身近な場所から始まる自然観察が、新しい発見や季節の喜びにつながるはずです。

3～5月の活動予定

- ・3月15日 定例活動日（稲株踏み：アカガエルの産卵遅れで延期有）
- ・4月19日 定例活動日（田植え前の畔回りなどの草取り）
- ・5月9日・10日 田植え（名戸小の田植えは未定）

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）

「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷記念病院前」下車

面積：約4,400㎡

湿性植物：53種 生きもの：133種

（2024年、年間を通じて観察した種類）



<https://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会
発行責任者：小笠原 智